

はてしなく にくす

目次

- 知と図書館 (鳥居 隆) 1-2
- 図書館員が薦める一冊 3-4
- 君に薦める一冊の本 (高山 成) 5-6
- サポーター書評・インタビュー 7-8

No.125 2025.1

ISSN : 0287-8194

知 と 図 書 館



大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部
システムデザイン工学科 教授 鳥居 隆

今年度から工学部で「人類の危機」をテーマにしたPBL型の授業を行なっています。人類がこれまでに積み重ねてきた知識と技術のおかげで私たちは快適に暮らすことができますが、一方でそれらに基づく人間の活動自体が大きな危機をもたらす可能性があり、現実に行進していることも事実です。自然で生じる破局的な天災も含めて、獲得した知識を総動員して危機を回避する方法や対策を探究しておけば、未来の人類から「良き祖先」と敬愛を込めて呼ばれるようになるかもしれません。

紀元前から現在にいたる人類知の発展において、図書館が重要な位置を占めてきたことは言うまでもありません。シュメール人が建設した文書を保管する施設から始まり、紀元前3世紀には古代世界で最も壮大、かつ重要なアレクサンドリア図書館がありました。中国では後漢の時代になると蔡倫が紙の製法をみ出し、それが西洋に伝わって高価なパピルスや羊皮紙にとって変わりました。それは、多くの知が口伝から文書や図書として幾世代に

もわたって正確に伝達されることを意味しました。グーテンベルクが活版印刷機を発明した中世西洋以降、書物の大規模で簡易な複製が可能に。知の伝播を桁違いに増大させるブレイクスルーです。そして現在では、情報はインターネットを通じて時間と空間の壁を軽々と越え、本や図書館のあり方も大きな変革の時代を迎えています。

未来はどうなるのでしょうか。最近は私たちのではなく人工の知能、AIが著しい進化を見せています。多くの研究者がいずれAIは意識を持ち、その知は人類を凌駕すると言います。そうなると私たちは「2番目の知的生命体」として生きていかなければならないのでしょうか。脳をスキャンして意識をコンピュータにアップロードすることが可能になると考えている人たちもいます。そのとき、私たちは不死を手に入れるのでしょうか。オンライン上で「脳」のネットワークを構築すれば、知や意識を共有して私たちはひとつの生命体になります。もちろん図書館をはじめ、すべての情報がその中に組み込まれていきます。それが人類知の究極の形なののでしょうか。こうした未来は俄かには信じがたいものですが、これまで物理学によって明らかにされた自然の「ありよう」を考えてみると、その実現を否定する要因は今のところ見当たりません。技術的にはまだまだ多くの時間を要するとしても、原理的にはそれらは可能であると現時点での結論を付けざるを得ません。

実際には、この先どのような世界が待っているのかは「神のみぞ知る」が正解でしょう。しかしながら、知のあり方が新たな出発点に立っていることに疑いの余地はありません。このような時代に学生として生きていることに対して、みなさんには強烈な自覚を持ち、同時に喜びやワクワクを感じていただきたいと思います。

アルケミスト 夢を放した少年

著:パウロ・コエーリョ

出版社:角川書店

大宮本館

資料ID:91161815

請求記号:969.31C

配置場所:工大4F文庫

夢を追う羊飼いの少年サンチャゴが自己成長や人生の意味を探求する物語です。商人や錬金術師たちとの出会いを経て、恐れを克服し、夢の実現に向けて一歩ずつ進んでいきます。

この物語は夢を追うことの大切さ、そして自分の直感を信じることの重要性を教えてくださいました。何か始めることを躊躇していた私にとって、この本は背中を押してくれました。大きな決断を迫られている人や、日常に追われている人にも勇気を与えてくれる本です。



図書館員が薦める一冊

このゴミは 収集できません

著:マシガンズ滝沢秀一

出版社:白夜書房

大宮本館

資料ID:91181118

請求記号:518.5411T

配置場所:工大4F

ゲート前

お笑い芸人の著者は定収入を得る為にゴミ清掃員になったのですが、その職業の目線でゴミを語ったマスコミでも話題の本です。

清掃員にクレームをつける人の話、金持ちの家が出すゴミ、ゴミ集積所を見ればその地域の治安がわかる等、興味深い現場の話が盛沢山です。

今迄のゴミ捨ての意識が変わります。

一家に一冊、おススメです。



宙ごはん

著:町田そのこ
出版社:小学館



大宮本館
資料ID:91220484
請求記号:913.6|IM
配置場所:工大4F
話題の本
枚方分館
資料ID:98221181
請求記号:913.6|IM
配置場所:工枚普通
図書

人生は思い通りにはいかない。だけど、その道を選んだからこそ出会えた幸せもある。物心ついた頃から育ての「ママ」と暮らしてきた宙(そら)は、小学校入学を機に産みの「お母さん」である花野(かの)と暮らすことになるが、憧れの花野との生活は苦悩の連続だった。そんな二人を愛あふれる人達の支えや様々な出来事、そして手作りの温かいごはんが織成す成長物語です。お腹は空き、心は満たされる。そんな希望の一冊です。

テーマ：経験を通じて気付くこと

年が明け、授業も残すところ後少しとなりました。

多数の卒研生は小学校から数えて16年間の学生生活がまもなく終わりを告げ、社会人としての一步を踏み出すこととなります。長い学生生活の中で様々な経験をされたことと思います。内容はきっと多種多様で千差万別かと思いますが、いずれも体験しなければわからなかった気づきがあったかと思えます。

今回はそんな「経験を通して気付くこと」をテーマに本をピックアップしました。この本を通して新たな気づきが豊かな人生経験の一助となることを願って。

わたしが「わたし」を 助けに行こう —自分を救う心理学—



著:橋本翔太
出版社:サンマーク出版
枚方分館
資料ID:98240280
請求記号:146.8|IH
配置場所:工枚普通
図書

「涙なくてして読めない」「号泣しました」と話題の本！悩みは「あなたを守るために」存在しており、誰しも自分で自分を助ける力を本当はもっている。あなたを傷つけまいと問題を引き起こす「もうひとりのあなた」である「心の防衛機能」をこの本の中では「ナイト（騎士）くん」と表現されている。「ナイトくん」と対話することで悩みを解決するという、心の学びの本！自己防衛反応を擬人化して自己と解離させるというアイデアは面白い！！

君に薦める 一冊の本



工学部
環境工学科
教授 高山 成

モームはイギリスの小説家・劇作家である。聞くところによると大変な皮肉屋であったらしい。そんな彼が1919年に発表した「月と六ペンス」は空前のベストセラーとなった代表作である。実は工大図書館からこの原稿依頼を受けた時かなり悩んだ。私にも皆さん同様若く多感な時代があり、陰鬱な受験勉強から解放され晴れて大学に入学したら読んでみたい本があった。実際、無事大学に入学して図書館でお目当ての小説を見つけ、借りて読んだ時の解放感と感動といたらそれはもう格別だった。しかし、具体的にその時に読んだ小説の何に若い私は心揺さぶられたのだろうか？今となっては記憶も断片的で上手く説明できそうにない。そんなおじさんが大上段から「君に薦める・・・」なんて書くのもひどく恥ずかしい。そういう訳でここはわが息子殿（大学3年生）に選書を頼むことにしたのだが、彼が選んだのはなんと100年以上前に書かれた本書であった。

『月と六ペンス』



【大宮本館】
配置場所 | 工大45F君に薦める
請求記号 | 933.71JM
資料ID | 91240684

【梅田分館】
配置場所 | 工梅君に薦める
請求記号 | 933.71JM
資料ID | 97240147

【枚方分館】
配置場所 | 工枚君に薦める
請求記号 | 0801S
資料ID | 98240356

編者名 | サマセット・モーム
出版社 | 新潮文庫
出版年 | 2014年

平凡な株式仲買人チャールズ・ストリックランドは絵を描くことへの狂气的な執着に取り憑かれ、40歳になって妻子や安定した生活それまでの全てを捨てる。物語は若い小説家である「私」がそんなストリックランドの一生に様々なきっかけで触れ、断片的な情報から人間としての彼を理解しようとするという形で進む。この「私」はモーム自身、ストリックランドは画家のゴーギャンがモチーフであると言われるが、あくまでモチーフであって伝記的小説などではない。大学生の息子にとっては、読み終えてから四年ほど経過した現在においても鮮烈に印象を残している作品であるそうだ。それは周囲の人間の人生をも破壊していくストリックランドの破滅的な生き方や人間性が、一般的な社会規範から到底受け入れられるようなものでなく、感情移入したり展開に納得したりすることが少なかったからで、読むべきではなかったかもしれないと考えたほどであったそうだ。

訳者もあとがきで書いているが、本作は恋愛小説でもなく冒険小説でもなく壮大なロマンスでもない。まして気の利いたミステリーでもない。しかし、一気に読者を引き込んで最後まで放さない魅力と迫力がある。今回改めて読んでみて私もまったく同感、一気に引き込まれてしまった。切れの良い台詞の応酬で登場人物の立場や個性を際立たせる構成、登場人物の絡ませ方や挿話の入れ方などはさすが劇作家と思わせる。本作から20代の息子は「信念とそれを霞ませるもの」を感じたようであったが、50代のわたしには本作がもっと人間を根源的に突き動かす「衝動」や「本能的ななにか」をテーマにしているように感じられる。人生の経験を少し積んで改めて読み直した時、また新しい鮮烈な印象を与えてくれるよい小説であるように思う。

* ライブラリーサポーター *

「200字書評」

ライブラリーサポーターさんから
200字書評を寄稿いただいたので紹介します!

「女生徒」 著:太宰治

「あさ、眼をさますときの気持は、面白い。(中略)押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、」

『人間失格』『走れメロス』で有名な太宰治の作品です。

14歳の少女の1日が描かれただけの短編小説。

しかしそこには思春期特有の厭世観や、自身の心とは裏腹に勝手に年を取り成長することへの葛藤が詰まっています。

太宰特有の文学表現も多く、文学「らしさ」が凝縮されています。

美しい日本語と共にどうぞ。

大宮所蔵 請求記号:913.6||D 資料ID:91170331 配架場所:工大4F文庫本

フリーペーパー『Libe!』は、サポーターが企画から発行まで行います。
毎号、サポーターのカラーも違って、内容も盛りだくさん。お役立ち情報も満載です。



* ライブラリーサポーターを募集しています! *

“ライブラリーサポーター”とは、学生の皆さんにとって魅力ある図書館を作るために、イベントや展示の企画・実行を行うボランティアです。

活動状況によっては大学公認の「ボランティア活動証明書(アチーブメントシート)」が交付されますので、就職活動の自己アピールとしても役立ちます。活動に興味のある方は、各館の図書館スタッフへお気軽

にお尋ねください! また、図書館HPの「サポーター
応募フォーム」からも応募可能です。

ビブリオバトル 挑戦者インタビュー

10月19日(土) 城北祭期間中に工大図書館大宮本館にて「全国大学ビブリオバトル2024関西Bブロック予選会」を開催しました。バトラーとして参加された枚方のライブラリーサポーター 情報システム学科1年の 玉置 実来(たまき みく)さんへ感想などを伺いました。

[ブロック予選会の様子はコチラ](#)



発表中の玉置さん



発表図書：
『暗幕のゲルニカ』
(原田マハ著/新潮文庫)

- Q1. これまでビブリオバトルの経験はありますか？
- A. 知的財産学科の水野先生にお誘いいただき7月にバトラーを務めた一回のみです。
- Q2. ビブリオバトルへの出場を決めた経緯はどういったものでしょうか？
- A. ポータルサイトで案内があり、丁度おもしろい本を読んだこともあり(参加賞もあるということ)参加を決めました。
- Q3. 今回『暗幕のゲルニカ』を発表する本に選ばれましたが、この本を選んだ理由を教えてください。
- A. 普段は近現代文学ばかりを読んでいたのですが、大学生という新ステージに立ったこともあって視野を広げようと試みていたことが、『暗幕のゲルニカ』との出会いです。有名な本ではありましたが、本当におもしろい小説で、個人的に衝撃の出会いだったので選ばせていただきました。
- Q4. ビブリオバトル予選会を通して気付いたこと、ためになったことは？
- A. 皆さん発表がお上手で、特に落ち着きとポイントをまとめることは私に足りていなかった要素だったと思いました。
- Q5. 機会があればまたビブリオバトルに出たいですか？
- A. また是非参加させていただきたいです。
- Q6. 次のビブリオバトルで挑戦したいことなど意気込みがあれば教えてください。
- A. 今回の反省を活かして、より魅力を伝えられる発表ができるようになればいいと思います。あとは、バトラー同士で話すのも楽しかったので、またいろんな人と話したいです。
- Q7. ビブリオバトルへ出場される方へのアドバイスなどお願いします。
- A. 今日では本を紹介する機会は少ないと思います。読書が好きでなくても、1冊好きな本があれば挑戦してみてもどうでしょうか！

玉置さん、ありがとうございました！